

【都市と美術研究所】2024年1月9日（火）研究会 発表要旨

## 地域行政と美術館

Regional Administration and Museums

岡部昌幸(群馬県立近代美術館特別館長・帝京大学名誉教授)

OKABE Masayuki

Director, The Museum of Modern Art, Gunma

/ Professor Emeritus of Art history, Teikyo University

---

学問の在り処とは、どこなのでしょう。郊外(Akadēmeia)と都市(university)のなかで学園や大学が発生しましたが、プラトンの学園は、世俗を離れて共同の研究生活を行い、数理的哲学的鍛錬を中心として、教える者と学ぶ者が講義形式ではなく対話を重ねて相互に、自己を高め合う場で、理想の実務家(政治行政の長)の育成を目的とした場と考えられています。

今日の美術館の飛躍的発展と社会認知、社会利用は、地域や地域行政とのかかわりが大きな背景となっていることは疑いありません。また、美術史研究全般もそうした美術館という現場(コレクション、企画展)が基盤となってきました。地域行政は、「地域の美術」、「都市と美術館」という新たなミッションを作り出し、その実務を担当する館長・学芸員たち実務家にテーマの設定、構想から調査、収集、さらに歴史の検証、叙述までも受け持たせることになりました。そうして、都市の美術史の構築の1スタイルが成立したといえるでしょう。

私は1980年代より複数の美術館の建設、運営に関わってからおよそ40年になりますが、美術館の存在が一変したように思えます。美術館の収蔵作品や展覧会で扱う美術の定義とジャンルが拡大、越境しました。様々なものを手掛けた私はしばし、それまでの美術界と社会の常識の壁と、縦割りの専門性に突き当たり、驚きました。また「定評のある美」だけでなく、見失われた美の再発見をライフワークとし、さまざまな美術・美術家の研究・顕彰を行ってきた私は、この40年間に、そうした美術家の多くが、県立、市立美術館などによって地域の作家として研究、収集、展示され、再評価され位置づけられるのに助けられました。美術館で大きく成長発展した教育普及活動や、ライブラリー、アーカイブほかの美術情報ネットワークは、美術を国内外の社会全体に役立つものとして広げ、発信しています。

### 略歴

1957年横浜生まれ。早稲田大学第一文学部美術史専攻、同大学院文学研究科芸術学(美術史)専攻博士前期課程修了、横浜市美術館準備室学芸員、東京都庭園美術館専門調査員等をへて、帝京大学大学院文学研究科日本史・文化財学専攻教授(美術史)、2023年4月より同大名誉教授。2017年2月、群馬県立近代美術館館長に就任、2020年4月より特別館長。畠山記念館顧問、日本フェノロサ学会会長等を兼務。西洋および日本近代美術、ジャポニズムを専攻。